

## 令和元年度 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

○日時：令和2年3月26日（木）午後2時から午後3時30分まで

○場所：旭川市職員会館2階 第2・3号室

○出席者

- ・委員5名 上島聰委員，堀川陽子委員，長谷川宏委員，鬼塚幹雄委員，大矢二郎委員
- ・各町5名 鷹栖町総務企画課 山原参事，東神楽町まちづくり推進課 矢本課長補佐，  
愛別町総務企画課政策企画室 上北室長，東川町企画総務課 窪田課長，  
美瑛町政策調整課政策調整係 安藤係長
- ・事務局（旭川市）4名 総合政策部 坂本次長，政策調整課 北嶋主幹，狩野主査，大島
- ・傍聴者1名（旭川ケーブルテレビ）

○会議資料

- ・次第
- ・資料1 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会委員名
- ・資料2 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱
- ・資料3 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会の会議運営（案）
- ・資料4 上川中部定住自立圏構想の概要
- ・資料5-1 令和2年度に向けた上川中部定住自立圏構想に係る変更内容について
- ・資料5-2 令和2年度上川中部定住自立圏連携事業
- ・資料6 上川中部定住自立圏共生ビジョン（案）
- ・資料7 定住自立圏構想推進要綱
- ・資料8 定住自立圏構想推進のための地方財政措置について

○会議内容

1 開会

2 委員紹介（資料1）

各委員，各町からの出席者の紹介

3 懇談会

(1) 座長，副座長選出（資料2）

ア 座長の選出

事務局の坂本次長が仮議長となり，座長の選出を行った。

事務局一任となり，事務局は大矢委員を座長に推薦し，了承された。

イ 副座長の選出

座長は，副座長に鬼塚委員を選任し，了承された。

(2) 会議ルールについて（資料3）

事務局から説明。提案のとおり了承された。

(3) 上川中部定住自立圏構想の概要と懇談会の目的について（資料4）

事務局から説明

(4) 議事

ア 定住自立圏形成協定及び共生ビジョンの変更について（資料5）

【定住自立圏形成協定の変更について】

○事務局から説明

- ・次年度に向けては、新規事業が1件、既存事業の廃止が1件あり、本年1月8日付けで形成協定の一部を変更する協定の締結を行った。
- ・新規事業は、8町全てと連携する「手話奉仕員・手話通訳者の養成」の1事業。本事業は、旭川市が開催する手話講習会について、その対象を圏域の住民に広げることで、圏域全体の障害者福祉の向上を図ろうとするもの。
- ・既存事業の廃止は、東神楽町と連携している「障害者相談事業」の1事業。本事業は、旭川市障害者総合相談支援センターにおいて、相談支援業務などを行う専門職員を配置しているものであるが、東神楽町において独自に相談員を確保し、相談体制を構築する目処が立ったことから、廃止するもの。
- ・連携事業数については、今年度と同様、29事業

○委員から

- ・意見等なし

【共生ビジョンの変更について】

○事務局から説明

- ・先ほど説明した事業内容の変更に伴い、共生ビジョンに「手話奉仕員・手話通訳者の養成」を追加し、「障害者相談事業」を削除している。
- ・18ページ以降に記載している「具体的取組」について、成果指標（KPI）に平成30年度の数値を追加し、個別事業も加除修正や、事業費等の変更をしている。

○委員から

- ・意見等なし

イ 今後の新たな広域連携へ向けた意見交換について

（座長）

- 平成27年度までの人口の推移を見ると、圏域全体の人口減は進んでいるが、東神楽町、東川町は増えている。東神楽町が増えている要因はどう考えているか。

（委員）

- 宅地が増えたことがある。現在そこがいっぱいになっているので、今後減ってくるのではないかと考えている。

(座長)

○それ以外にも政策的に何かあるのではないか。

(委員)

○医療費の無償化など、子育てしやすい環境づくりに取り組んでいる。

(委員)

○鷹栖町も人口が減ってきている中で、農業者に対する支援を行っているが、自然減が多いため、どうやっても人口が増えない。人口が減っても安心して暮らせる仕組みが大切。

(座長)

○農家人口の推移を見ると、いくつかの町で増えていることが確認できる。

○また人口の推移を見ると、旭川市は人口が減り、世帯数が増えている。これは単身世帯が増えているということではないか。このような状況の影響として、例えば自力では除雪が困難な家の前を地域の人が除雪を代行するといった対応が必要になっている。こうした問題は、それぞれの地域で考えていかなければならない。

○東川町は外国人居住者が多いと思うが、どうしてか。

(委員)

○東川町は、町立の日本語学校と、北工学園が運営する旭川福祉専門学校があり、常時300人程度の外国人生徒がいる。

○そのほか、地道な移住・定住の取組も行っており、外国人も含め、ベーカリーやコーヒーショップなどを営む方が増えている。

(座長)

○東川町は、5年計画で織田コレクションの公有化を進めている。織田コレクションは、東海大学名誉教授の織田氏が収集した家具や日用品で、メインは椅子。東川町はデザインによるまちづくりを進めており、ユニークな取組といえる。上川中部圏域のそれぞれの自治体が、特色を出した取組を進めていけば、人口の社会増につながるのではないか。

(委員)

○私は民生委員もやっているが、鷹栖町では民生委員の道内研修を行っている。東川町では毎年道外研修を行っていると聞いている。そういう取組を行うと自然と人が集まってくると思う。

(座長)

○旭川は医療が充実しており、定住自立圏形成協定でも救急医療について周辺町と連携している。現在、新型コロナウイルスが旭川市内や上川管内でも発生しているが、感染の疑いがあるときはどうしているか。

(事務局)

○検査については、旭川市保健所が旭川市民の検査を実施している。周辺町については、北海道の管轄となるので、上川保健所に対応している。

- 圏域で重症患者が出た場合は、2次救急医療の病院群輪番制に参加している五つの病院（市立旭川病院、旭川医科大学病院、旭川赤十字病院、J A北海道厚生連旭川厚生病院、独立行政法人国立病院機構旭川医療センター）で受け入れる。

（座長）

- 災害に関しては、各自治体で色々と準備をしていると思うが、今回のような感染症などに関しても日頃から準備しておくべきだ。
- 成年後見支援センターや無料法律相談は相談件数が多くなっている。こういった相談体制を整えておくことも大切である。

（委員）

- 成年後見人をつけた場合、費用はどのくらいかかるのか、具体的に説明してもらえるようにしてほしい。

（座長）

- わかりやすい制度の構築が大切である。
- 定住自立圏形成協定の中に「国際交流の推進」という取組がある。旭川市のホームページは、数か国語に翻訳されているが、機械で翻訳しただけのもの。最近、英文のページを見たが、新型コロナウイルスに関する記事がない。困ったときの相談先を案内するくらいのホスピタリティ・気配りがあって良いのではないか。SNS等で発信しているかもしれないが、SNSはあくまでも対個人である。ホームページでも発信すべきと考える。

## （5）その他

事務局から、次期共生ビジョンの策定について説明

- ・現行の共生ビジョンの期間は、平成28年度から令和2年度までとなっている。令和2年度は、次期共生ビジョンの策定作業を行う。
- ・次期共生ビジョンの策定に当たっては、現在の取組について成果指標（K P I）の達成状況などによる効果検証を行い、取組の入れ替えも検討しながら検討を進める。
- ・来年度は、現行の共生ビジョンの効果検証を踏まえた次期ビジョンの方向性について、意見をいただきたい。

## 5 閉会

以 上